

令和 3 年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)



学校法人 滝 学 園

令和３年度 学校法人 滝 学 園 事 業 報 告 書

1 法人の概要

本学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づく学校教育を行い、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

この目的を達成するための令和３年度における滝学園の事業報告は以下のとおりであります。

（１）法人名、所在地

（法人名） 学校法人 滝学園

（所在地） 愛知県江南市東野町米野１番地

（２）創立者 及び 建学の精神

（創立者） 瀧 信四郎

実業家として成功を収めた瀧 信四郎が、「教育の任務は重大であり、その成果は永遠である。長期的視野にたてば、自分を育ててくれた郷土から将来社会に貢献できる青少年を育成することこそ最大の恩返しである。」と考え、「報恩感謝」、「質実剛健」、「勤勉力行」を建学の精神（校訓）とし、大正 15 年 4 月に開校しました。

（３）沿革（抜粋）

大正 13 年 6 月	設立計画発表
大正 15 年 4 月	瀧実業学校開校
昭和元年 12 月	本館竣工
昭和 4 年 3 月	専修科設置認可
昭和 5 年 2 月	農業科・商業科 3 年制（乙種）併設
昭和 8 年 12 月	講堂・旧図書館竣工
昭和 11 年 7 月	財団法人設立認可
昭和 14 年 2 月	農業科・商業科 3 年制廃止 農業部 3 年制（甲種）第 2 本科新設
昭和 19 年 2 月	商業部・農業部第 2 本科廃止、
“ 3 月	農業拓殖科設置（昭和 21 年廃止）
昭和 21 年 4 月	商業部再度設置
昭和 22 年 4 月	滝中学校（男女共学）併設
昭和 23 年 4 月	農業科設置（昭和 37 年に畜産園芸科に改編、昭和 45 年廃止）
“	商業科設置（平成 12 年廃止）
昭和 24 年 4 月	普通科新設
昭和 25 年 3 月	農業別科設置（昭和 28 年廃止）
昭和 25 年 4 月	家庭科新設（昭和 30 年 4 月廃止）
“ 5 月	滝服装文化学園併設（昭和 26 年廃止）
昭和 26 年 4 月	学校法人設立認可
昭和 34 年～	旧中学館竣工 35 年—プール竣工 38 年—旧 2 号館竣工
昭和 39 年 4 月	滝実業高等学校を滝高等学校に校名変更
昭和 41 年～	第 1 体育館竣工 44 年—現特別教室棟東館（旧中学館）竣工

昭和 50 年	50 周年事業として 3 号館及び報恩館竣工（80 周年時に解体）
平成 9 年	第 2 体育館竣工 10 年—現高校南館・高校北館竣工
平成 13 年 3 月	本館・講堂 国の有形文化財建造物として登録
平成 14 年 4 月	土曜講座始まる
平成 19 年	現中学館竣工
平成 20 年～	カナダ研修 27 年—英国研修 28 年—米国研修 始まる
平成 23 年～	地域枠推薦入試 24 年—帰国生入試 始まる
平成 28 年 9 月	今後の滝学園の目指す教育を滝学園と連携し、補完する機関 「株式会社滝教育研究所」を設立
平成 29 年 6 月	図書館 国の有形文化財建造物として登録（増築部分を含む）
平成 31 年 3 月	「株式会社滝教育研究所」施設拡充・拡大のため移転 滝学園江南駅前キャンパス竣工(名古屋銀行 旧江南支店 古知野町久保見)
令和元年 8 月	学内 LAN 高速化（1G から 10G へ）に伴う ネットワークシステムの再構築事業完成
令和元年 8 月	各教室へ映像配信システム （授業支援、ライブ配信システム）の設置事業完成
令和 2 年 7 月	中学全学年に iPad 貸与開始（令和 5 年度には全生徒に貸与予定）
令和 3 年 10 月	一宮⇄滝学園間スクールバス運行開始 （令和 4 年 4 月 江南⇄滝学園間も運行開始）
令和 4 年 2 月	滝中学校 名古屋会場受験開始

（４）法人組織

学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い学校を設置することを目的に創立された法人であり、法人組織については以下のとおりであります。また、現在設置している学校は、滝高等学校及び滝中学校の 2 校であります。

【評議員会】

評議員をもって組織し、学校法人の業務、財産の状況、役員の業務執行の状況について役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴する。

【理事会】

理事をもって組織し、本法人の業務を決し、理事の職務執行を監督する。

（５）法人役員の状況 （令和 3 年 5 月 1 日）

（注）【 】内は寄付行為中の条・項・号の該当数

1. 理事長 滝 富 夫
2. 理事（定員 7 名～11 名 現員 10 名）

理 事【7-1-1】	戸 田 誠				
理 事【7-1-2】	滝 富夫	朱宮新治	滝 祥夫	中島政彦	壁谷昭徳
理 事【7-1-3】	加藤千麿	田口俊明	天野源之	小川 宏嗣	
3. 監事（定員 2 名 現員 2 名）

監 事	加藤智子	伊藤靖祐
-----	------	------
4. 評議員（定員 17 名～24 名 現員 20 名）

評議員【26-1-1】	戸 田 誠
-------------	-------

評議員【26-1-2】中島政彦 原 博司 高瀬裕隆 横井大五郎 壁谷昭徳

評議員【26-1-3】野木森剛 上松泰歳 五藤三佐樹

評議員【26-1-4】滝 富夫 滝 康夫 浅井 将雄 古川秀興 古川爲之 熊澤建雄
澤田和延 滝 祥夫 渡邊 敦 野々川房子 大西正一

(6) 法人の活動

理事会及び評議員会を開催し、学校法人の事業計画及び運営上の重要事項の審議、決定及び業務執行をする。

(7) 令和3年度開催予定の理事会、評議員会への付議事項及び決議事項の概要

■令和3年6月1日 開催 於：学校法人 滝学園 会議室

- ・令和2年度事業報告案承認の件
- ・令和2年度収支決算案承認の件
- ・法人役員（理事・評議員・監事）改選案承認の件
- ・理事長選任承認の件
- ・理事長の職務の代理執行者選任承認の件

■令和3年9月2日 開催 於：学校法人 滝学園 会議室

- ・滝高等学校の学則カリキュラム変更及び滝中学校教育課程変更の件

■令和3年11月9日 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

[報告事項]滝学園百周年記念事業について

■令和4年3月4日 開催 於：学校法人 滝学園 会議室

- ・令和3年度補正予算案承認の件
- ・令和3年度施設設備引当資産取崩案承認の件
- ・令和3年度減価償却引当資産取崩承認の件
- ・令和4年度事業計画案承認の件
- ・令和4年度予算案承認の件
- ・令和4年度管理職人事承認の件
- ・就業規則改定案承認の件
- ・中学教育課程変更承認の件

2 設置する学校の概要

(1) 設置する学校名、課程、科、校長、所在地

(学校名) 滝高等学校 全日制課程 普通科 (男女共学)

滝中学校 (男女共学)

(校長) 滝高等学校 戸田 誠

滝中学校 原 博司

(所在地) 愛知県江南市東野町米野1番地

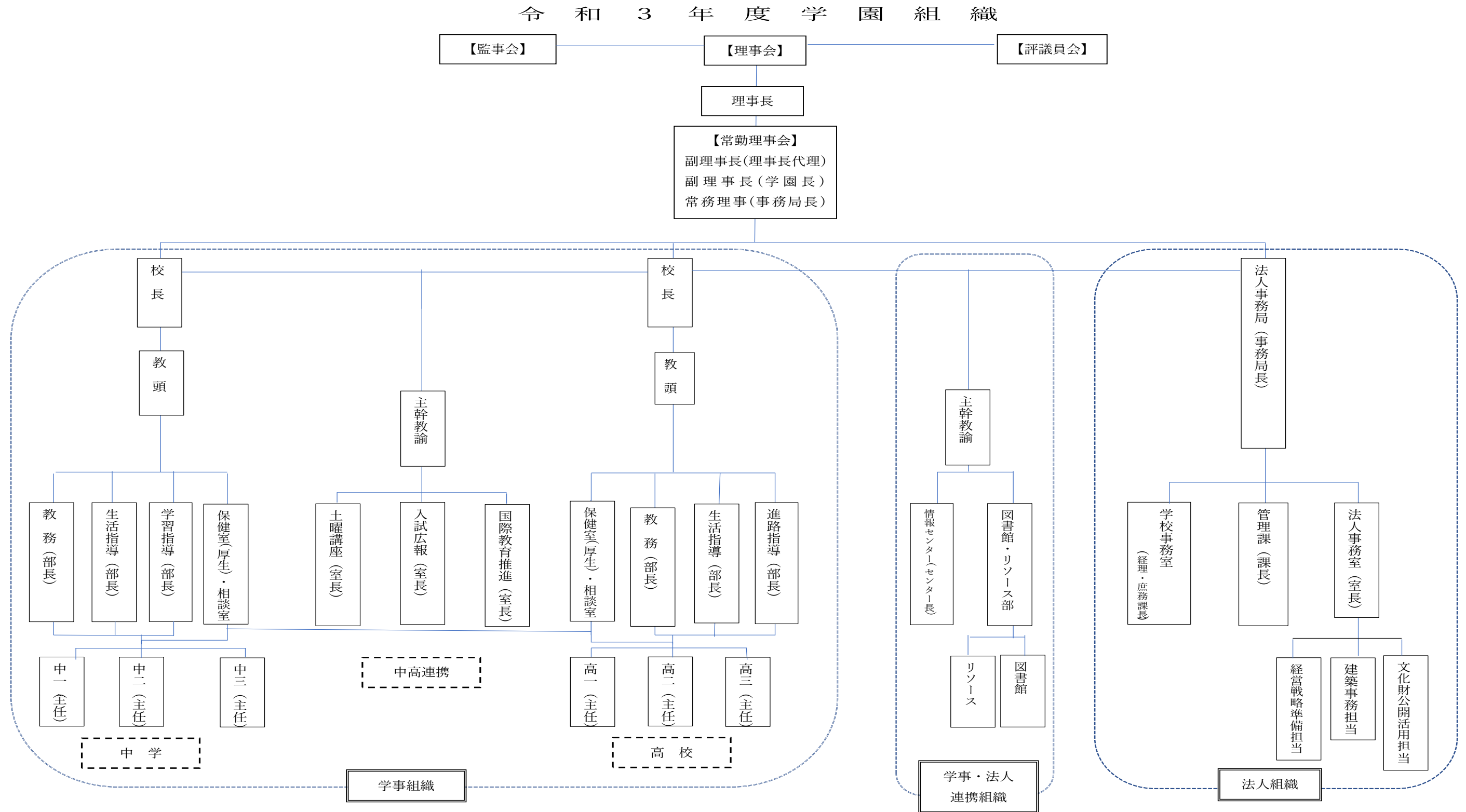
(2) 設置する学校の収容(入学)定員、学生数、学級数 (令和3年5月1日)

学 校 名	学 年	収容(入学)定員	生徒数	学級数
滝 高 等 学 校	1 年 生	360 名	389 名	9
	2 年 生	360 名	357 名	9
	3 年 生	360 名	326 名	9
	合 計	1080 名	1,072 名	27
滝 中 学 校	1 年 生	280 名	252 名	6
	2 年 生	280 名	251 名	6
	3 年 生	280 名	251 名	6
	合 計	840 名	754 名	18
総 合 計			1,826 名	45

(3) 設置する学校の教職員数 (令和3年5月1日)

学 校 名	学園長	校長	教頭	教諭 / 養護	事務職 / 司書	講師	契約職員	校医
滝高等学校	1	1	1	54 2	7 1	11	7	4
滝 中学校		1	1	37 2	3 1	6	2	4

(4) 学園組織、会議組織、委員会組織



令和 3 年度 会議組織

会議名	実施間隔等	理事長	副理事長	学園長	事務局長	高校校長	中学校長	高校教頭	中学教頭	主幹教諭 (中高連携)	主幹教諭 (教情センター長)	高校分掌部長	中学分掌部長	入試広報室長	土曜講座室長	国際教育推進室長	法人事務室長	高学年主任	中学年主任	各科主任	備考 (参加メンバー等)
理事・評議員会	四半期	◎	○	○	○	○	○	○	○												
常勤理事会議	週 1		○	◎	○																
経営戦略会議	隔週		○	◎	○	○	○	○	○	△	△						○				
管理職会議	週 1		○	○	○	◎	○	○	○												
高校企画会議	隔週					○		◎				○									
中学企画会議	隔週						○		◎				○								
高校部長主任会議	隔週											◎						○			
中学部長主任会議	隔週												◎						○		
高校分掌会議	月 1											◎									高校分掌部員
中学分掌会議	月 1												◎								中学分掌部員
高校学年会議	月 1																	◎			各学年所属教諭
中学学年会議	月 1																		◎		各学年所属教員
入試広報会議	週 1		△	△	△									◎							入試広報委員
土曜講座会議	週 1		△	△	△										◎						土曜講座委員
国際教育推進会議	月 1		△	△	△											◎					国際教育推進委員
教育情報推進会議	週 1		△	△	△						◎										教育情報推進委員
保健・相談会議	月 1							○	○												【議長】保健主任 養護教諭・相談部員
各科会議	隔月																			◎	各教科委員
厚生会議	月 1							○	○								○				【議長】任命教諭 管理課員
高校会議（全体会議）	隔月																				【議長】任命教諭 高校所属教員
中学会議（全体会議）	隔月																				【議長】任命教諭 中学所属教員
※◎主催者 ○参加者 △テーマによつての参加者																					

令和 3 年度 各種委員会

令和3年度 各種委員会構成メンバー

安全委員会		ハラスメント対策委員会	
担当教頭	高瀬 裕隆	委員長(高校校長)	戸田 誠
委員長	藤本 翔大	委員(中学校長)	原 博司
委員(養護教諭)	関 則子	委員(中学教頭)	横井大五郎
委員(中学運動)	神田 百恵	委員(中学教頭)	高瀬 裕隆
委員(中学文化)	奥村 敬大	委員(経理課長)	中村 直子
委員(高校運動)	小川 岳大	委員(中学生生活指導部長)	武田 靖子
委員(高校文化)	服部 雅司	委員(高校生活指導部長)	中廣 大
委員(庶務課長)	舟橋 昌富	委員	大竹美保子
		委員	塚本久美子
入試委員会		ハラスメント窓口担当者	
委員長(高校教頭)	高瀬 裕隆	岩塚 友紘	佐藤 千尋
副委員長(中学教頭)	横井大五郎	酒向 孝芳	小澤 真紀
委員(高校教務部長)	近藤 功明	小山 香織	
委員(中学教務部長)	梶田 久雄		
委員(主幹教諭)	高橋 秀希		
委員(主幹教諭)	福地 敏温		
委員(事務局長)	壁谷 昭徳		
委員(庶務課長)	舟橋 昌富		
教科主任		衛生委員会	
英語	八谷 信	委員長(高校校長)	戸田 誠
数学	酒向 孝芳	副委員長(中学校長)	原 博司
国語	岩井 里奈	委員(事務局長)	壁谷 昭徳
理科	小島 陽一	委員(養護教諭)	加藤 晃子
社会	井戸 康貴	委員(教職員代表)	(組合委員長)
保健体育	原 裕人	委員(産業医)	野木森 剛
芸術等の教科代表	野々山敬之		
職員協議会		建築会議	
議長	秋田 陽哉	滝 祥夫	原 博司
副議長	佐橋 亮太	中島 政彦	戸田 誠
		壁谷 昭徳	
ネットやケータイの犯罪・被害対策委員会		建築委員会	
委員長(中学教頭)	横井大五郎	企画委員	中高企画運営会議のメンバー、主幹教諭
副委員長(高校教頭)	高瀬 裕隆		舟橋 昌富(庶務課長)
委員(高校生活指導部長)	中廣 大	教科委員	秋田 陽哉(国語) 貝沼 隆志(技術)
委員(中学生生活指導部長)	武田 靖子		近藤 帝嘉(数学) 羽生 裕司(保体)
情報センター長	福地 敏温		中島 雅斗(英語) 六浦 政人(事務)
ネットワークアドバイザー	佐宗美智代		上野 晃平(社会) 星野 佳代(図書)
			深山 裕史(理科) 安藤 裕司(国語・図書)
学校評価委員会		ICT支援係	
委員長(情報センター長)	福地 敏温	貝沼 隆志(中1)	川瀬 有香(高1)
委員(中学校長)	原 博司	水野 綾香(中2)	長村 侑輝(高2)
委員(高校校長)	戸田 誠	近藤 帝嘉(中3)	安藤 裕司(高3)
委員(中学教頭)	横井大五郎		
委員(高校教頭)	高瀬 裕隆		
委員(主幹教諭)	高橋 秀希		
委員(事務局長)	壁谷 昭徳		

3 事業の概要

(1) 教育活動（主な活動抜粋）

(A) 教務部（各種行事計画・実施 図書・視聴覚活動）

基本的教育活動の一環として、密度の濃い授業の実施及び学校全体の教育に係る行事を実施した。コロナ禍の影響でやむを得ず中止したものもある。

- 4 月 入学式 始業式 宿題テスト 新入生オリエンテーション 遠足
生徒面談
- 5 月 教育実習生受入 定期考査 中3修学旅行(長崎3泊4日)⇒中止
- 6 月 学級別懇談会 研究授業
- 7 月 定期考査 高1・2 GTEC 終業式
- 8 月 特別授業(復習授業)中学体験型学習(中1英語プログラム
中2自然体験学習⇒中止 中3エンパワーメントプログラム⇒中止)
- 9 月 始業式 宿題テスト 生徒面談
- 10 月 定期考査
- 11 月 学級懇談会
- 12 月 定期考査 実力テスト 生徒面談 高1 GTEC 終業式 特別授業(復習
授業、受験対策)

(高2) 修学旅行(台湾3泊4日)⇒コロナ感染防止のため沖縄へ変更予定

- 1 月 始業式 宿題テスト 中学球技大会 高1・2球技大会
- 2 月 カルタ大会
- 3 月 定期考査 卒業式 終業式

(B) 進路学習指導部

【高校進路に関する指導】

日常の学習及び受験に向けての情報並びに幅広い社会的情報を提供するため、各種説明会、講演会、教養講座及び学習講座等を実施した。

- 4 月 大学入試結果報告会
- 5 月 高2理系講演会(理工系)
- 6 月 高2文系講演会 高2理系講演会(医療系) 高1文理説明会
- 7 月 高3進学説明会
- 8 月 大学進学懇談会
- 9 月 大学入学共通テスト出願説明会
- 10 月 中3進学説明会 高1進路講演会(理系) 高2進学説明会
- 11 月 高1進路講演会(文系)
- 1 月 中2進学説明会 高2進学説明会 高3出願大学検討会

【中学学習に関する指導】

基礎学力定着における取組を実施した。

【土曜講座の企画並びに運営】

平成14年度からの「学校5日制」実施に伴い、本校では年間7～8回特定の土曜日に「土曜講座」という新しい教育フィールドを設け、年間約700講座を開講しています。

そこには2本の柱、①教養講座 と②学習講座を立て、生徒の自由参加の元教員自ら、又は講師を招き、日常の授業では得られない教育効果を求め継続的に実施している（記念講演会）

1年間の「土曜講座」の集大成として、又、新入生記念行事として毎年4月に「記念講演会」を実施しています。

在校生や多くの卒業生・保護者の方に、各界の識者の講演を聴講しています。

- 第1回記念講演(平成15年4月19日)
 - ノーベル物理学賞受賞者 ジェローム・フリードマン教授
- 第2回記念講演(平成16年4月17日)
 - 哲学者 梅原 猛 氏
- 第3回記念講演(平成17年4月16日)
 - ノーベル化学賞受賞者中央研究院院長 李遠哲 氏
- 第4回記念講演(平成18年4月15日)
 - アファンの森財団理事長・作家 C.W.ニコル 氏
- 第5回記念講演(平成19年4月21日)
 - 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏
- 第6回記念講演(平成20年4月12日)
 - 翻訳家 池田香代子氏
- 第7回記念講演(平成21年4月11日)
 - 数学者 秋山 仁 氏
- 第8回記念講演(平成22年4月8日)
 - 全国骨髓バンク推進連絡協議会会長 大谷貴子氏
- 第9回記念講演(平成23年4月16日)
 - 第29次、第35次南極地域観測隊観測隊長 渡辺 興亜氏
- 第10回記念講演(平成24年4月14日)
 - 明治大学文学部教授 齋藤 孝氏
- 第11回記念講演(平成25年4月13日)
 - 生物学者・理学博士 池田 清彦氏
- 第12回記念講演(平成26年4月12日)
 - 経済アナリスト 森永 卓郎氏
- 第13回記念講演(平成27年4月11日)
 - ノーベル物理学賞受賞者 小柴 昌俊氏
- 第14回記念講演(平成28年4月9日)

- 東京大学名誉教授 養老 孟司氏
- 第15回記念講演(平成29年4月15日)
 - 日中友好協会会長グローバルビジネス学会会長 丹羽宇一郎氏
- 第16回記念講演(平成30年4月14日)
 - 名古屋大学教授ノーベル物理学賞受賞者 天野 浩 氏
- 第17回記念講演(平成31年4月20日)
 - 株式会社リアルディア代表取締役社長(元アップル副社長)
(滝高等学校 第26回 卒業生) 前刀 禎明氏
(さきとうよしあき)
- 第18回記念講演(令和2年4月18日)
 - 脳科学者 茂木 健一郎 氏
 - ⇒コロナ感染拡大防止のため、中止となりました。

- 第19回記念講演(令和3年4月10日)
 - 名古屋大学特任助教(滝高等学校 第47回 卒業生) 森島邦博 氏

(C) 生活指導部(生活・保健衛生・安全に関する指導、生徒会活動)

生徒の日常的な生活、安全、衛生・健康に対する指導を目的とし、各種関係団体・部署との連携を保ち、行事等を実施した。

- 4月 教職員健康診断 生徒会役員選挙 クラブ見学・登録、安全教育
- 5月 避難訓練 校外(通学路)清掃活動 新入生内科・歯科検診
- 6月 通学路交通安全指導 避難訓練
- 7月 自然体験学習事前検診⇒中止
- 9月 文化祭 体育大会⇒中止
- 10月 校外(通学路)清掃活動 生徒会役員選挙 通学路交通安全指導⇒中止
- 11月 避難訓練
- 2月 在校生内科・歯科検診

(D) 入試広報室(募集活動 情報発信や連絡網の強化、入試業務のIT化)

中・高の入試に係る募集活動(学校案内作成、各種説明会やオープンキャンパスの実施)、学外の広報活動(マスコミ、企業)、HPの管理運営、学園の校報紙の発行等並びに入試業務のIT化を行う。

(E) 科、学年、その他

各部署の計画以外に、各学年及び各科が学校教育に必要と考える独自の計画をたて、実施した。

- 4月 憲法講演会(社会科)
- 10月 美術的行事(中1)
- 11月 音楽的行事(中1)

(F) 国際教育推進室(国際交流・海外研修、職員海外研修、海外提携の研究)

【国際交流・海外研修】

国際的視野を広め、英語学習や職業選択等に対する意識を向上させることを目的と

する。

① カナダ研修（派遣人員：20名程度 派遣期間：8日間程度）

中学3年生希望者から選考し、春期休業中にカナダ派遣する。期間中は研修プログラムに従い、現地の生徒たちとの交流を図る。滞在はホームステイとし、現地での生活を実体験させることにより、異文化を理解させ、語学力の向上及び国際的視野を広げる一助とする。⇒コロナ禍により中止

② アメリカ研修（派遣人員：20～40名程度 派遣期間：10日間程度）

高校1年生希望者をアメリカに派遣し、世界のトップ大学とそこに集う教師陣、学生など、一流を身近に感じさせる。将来のキャリア像をグローバルな視点でとらえ、自分自身の夢の実現に向け、モチベーションとすることを期待する。

⇒コロナ禍により中止（代替としてネットを用いた交流等のプログラムを実施）

③ イギリス研修（同窓会援助事業）（派遣人員：5名程度 派遣期間：10日間程度）

高校2年生希望者から選抜し、イギリス（主にロンドン）に派遣する。日本各地並びに現地からの同世代の生徒との交流・意見交換、世界で活躍する日本人との対話、UCLの教授陣による講義等を経験する機会を与える。広い視野を持つ人物から、その考え方、経験を学び、それぞれの生徒が自身のステージをあげることを期待する。

⇒コロナ禍により中止（オンラインで3日間のプログラムを実施）

④ 国立竹東高級中学（台湾）等の文化交流訪問（訪問人員：生徒約30名 教員数名）

時期：12月中旬

平成30年度から始まった高2の修学旅行で訪問した台湾の国立竹東高級中学が、本校に訪問し、授業見学、クラブ活動見学等、本校生徒との文化交流をする。

国外の学校との文化交流をし、視野を広くすることを目的とする。

⇒修学旅行行先変更のため中止

【職員海外研修、海外提携の研究】

世界規模で活躍する人材をより多く輩出するため、職員の意識と指導のグローバル化の推進を目指す。海外の教育事情を研究し、在校生及び卒業生の留学のあり方を考える機会とする。海外の大学・高校等の状況を研究し、交流や連携のあり方も考え、立案できるようにする。

① カナダ教育事情視察（派遣人員：1名程度 派遣期間：8日間程度）

時期：3月 訪問地：カナダ（主にビクトリア）

生徒のカナダ研修の往復では、付き添い教員をサポートし、生徒の研修期間中には、現地の学校現場を視察しながら、本校のグローバル化のあり方を考える。

⇒コロナ禍により中止

② 海外教育事情視察（派遣人員：各1名程度 派遣期間：10日間程度）

時期：8月 訪問地：イギリス（主にロンドン）

イギリスへの生徒の派遣に同行しながら、先進的な教育環境や教育内容を研究する。将来の国際交流の可能性や、本校のグローバル化のあり方について考えるきっかけとする。

⇒コロナ禍により中止

(G) 情報センター 図書館・リソース部（令和３年度より新規設置）

令和元年度に、校内高速無線 LAN 工事と全教員への iPad 貸与を実施した。順次進めてきた各教室並びに関係各所への大型提示装置の設置も令和２年度には完了した。令和２年度には、生徒の ICT スキルを育てる環境を一層充実させるべく、中学生１人１人にタブレットを持たせることとした。令和３年度からも年次進行として新中１生にも貸与。令和５年度には中・高すべての生徒に一人一台のタブレットが貸与されることになる。令和３年度より教育情報推進センターが IT 機器の管理や利用活用の研究・指導を担う新たな部署として「情報センター室」を設置した。図書館書籍、資料のデータベースの構築、又、学園の教育資産のデータによる蓄積を担う「図書館・リソース部」も充実させた。教育活動のみならず法人事務の IT 化を含め、職員に対しても、積極的にサポートする部署とした。

(H) ９０周年行事で策定された「滝２０２６への羅針盤」の推進。

「羅針盤」の新しい教育活動の充実

① 基礎的な知識・技能のより確実な習得

・滝教育研究所について

令和３年度は、開講時こそコロナ禍による影響は避けられたものの、期中に約２ヶ月間の休館を余儀なくされたことで、運営面では非常に不安定な運営を強いられる１年となった。コロナの影響に拠る設置講座数の減少（２６講座⇒２２講座）などにより延受講者が約１０％減少（４７８名⇒４２５名 開講時）、休館に伴う受講料の返金などを含め、講座収入が前年比約２００万円のマイナス（１５０万円⇒３５０万円）となった。一方で、講座あたりの平均受講者数は１９年：１８．９名 ２０年：１８．４名 ２１年：１９．３名と増加、自習室の利用者の定着など、「課外学習の場」としてのプラス材料もいくつか見出すことが出来た。

・NETの活用

（帰国生を中心とした英会話ブラッシュアップ講座）

②知識・技能を活用し課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力の獲得

・新土曜講座の充実（教養講座の重視）

・江南市民への開放講座

③主体的に協働しながら学習に取り組む態度の育成

・各種コンテストへの参加

(２) 教育施設・設備の充実及び安全確保

教育施設設備及び教育諸環境を整備・充実させることにより、教育効果を高め、また学校生活における安全を確保することを目的とする。

(A) 定期的な点検

校舎、クラブハウス等教育施設の安全点検

体育設備（防球ネット、ゴール等）の安全点検

緊急時設備（消防設備、プール水、緊急放送、避難経路等）の点検

校舎内施設（階段、床、扉、窓枠等）の安全点検

校舎外施設（門扉、フェンス、駐輪場、側溝等）の安全点検

緊急時の食料・宿泊用備品及び設備の確保・整備

（B）長期維持管理の修繕、メンテナンス

建築後 10 年以上の施設の施設維持保繕は、計画を立て、例年通り実施を行う。

（女子テニスコート・コート・ネット修繕。特別棟東館一部改修工事）

（C）教育機器備品の充実

学年進行による新中 1 から高 1 までのタブレットの貸与。（中一から高一まで貸与完了）

Wi-Fi 環境の一層の整備（本館、中学館、特別棟一部配置変更等による）

外部からのハッカー等に備えてのセキュリティ強化のための教職員端末更新、サーバー更新

（D）滝学園⇄一宮間スクールバス導入

生徒の安全・利便性を考え、10 月より運行開始

（令和 4 年 4 月より滝学園⇄江南駅間 運行開始）

導入のための運行計画・運行ルール・導入に伴う施設設備（バス駐車場・運転手管理者の事務所・バス乗降場所）の整備

（E）文化財建造物を活用した地域活性化事業

平成 29 年度から令和 1 年度にかけて保存活用計画策定、耐震診断・補強案策定を行った。令和 2 年度より基本設計を行い、図書館 2 階部分は現状のまま図書館として残し、教育活動に支障のない範囲で文化財としての公開活用を行うこととした。令和 3 年度は、基本設計をもとに具体的に各建物、各部屋の内装、造作また設備や外構等細部について実施設計を進めた。

（3）生徒募集活動

創立者の学校法人設立の理念に基づき、社会に貢献できる人材を多く育成するため、また、学校法人の永続的な安定した運営を図るため、ひろく生徒を募集することを目的とする。

（A）学校説明会及び入試説明会

5 月 オープンキャンパス・授業体験

5 月 中学・高校学校説明会（名古屋）⇒WEBにて動画配信

8 月 中学校学校説明会（本校）、高校学校見学会（本校）、中学校学校説明会（岐阜）

10 月 中学入試説明会（小学生対象）

11 月 高校入学説明会（中学生対象）

（B）私学協会、中学部会関係（合同相談会等）

6 月 多治見相談会

7 月 私立中学進学フェア（名古屋）

10 月 私立学校展

（C）その他 関係諸団体での説明会

(高) 10 回程度 (中) 20 回程度

(D) 学校施設提供

塾開催の模擬試験会場の提供(日能研、名進研、野田塾等)

(E) 令和 3 年度入学試験

高等学校 (令和 4 年 2 月) 中学校 (令和 4 年 2 月)

[志願者数] 高等学校 1,009 名 (昨年: 1,030 名)

中学校 1,868 名 (昨年: 1,797 名)

(4) P T A 活動 (学校側参加分)

本学園の生徒の保護者と教職員が緊密に連携し、生徒に対する教育を真摯に考える機会を設け、「滝学園父母と教師の会」が企画・立案した活動に積極的に参加・協力することを目的とする。

4 月 総会

5 月 役員会 学校説明会(名古屋)

6 月 地区懇談会 (全地区) 通学路安全指導 (高校)

7 月 学校説明会(4 支部)

8 月 大学進学懇談会⇒WEB にて動画配信 学校説明会 (岐阜)

9 月 支部長会議

10 月 通学路安全指導 (中学) ⇒コロナ禍のため中止

12 月 保健安全講演会

3 月 役員会

(5) 同窓会活動 (学校側参加分)

広く社会で活躍中の本学園の卒業生の組織活動に積極的に参加・働きかけをし、本学園の現状報告をするなどお互いに情報交換をし、また、本学園の理想的将来像等について意見を聴取するなど、お互いに理解を深めることを目的とする。

5 月 役員会 岐阜支部会

6 月 関西支部会

7 月 東京支部会 中部支部会

9 月 総会

12 月 役員会

その他 地域: 一宮滝友会 (地区同窓会の準備組織)

職域: 豊田自動織機、法曹会

以 上

資金収支計算書

(単位:千円)

	科 目	令和 2 年度	令和1年度	平成 30 年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	993,573	986,427	1,007,349
	手数料収入	39,567	43,169	43,208
	寄付金収入	8,413	7,160	10,665
	補助金収入	690,868	625,517	607,279
	資産運用収入	15,082	14,450	9,266
	資産売却収入	0	200,000	399,163
	事業収入	4,034	4,108	4,357
	雑収入	140,235	113,831	32,099
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	154,793	145,553	141,847
	その他の収入	740,964	772,424	1,682,066
	資金収入調整勘定	△287,521	△225,618	△163,374
	前年度繰越支払資金	249,030	332,769	379,018
	収入の部 合計	2,749,043	3,019,793	4,152,947
支出の部	人件費支出	1,432,132	1,390,014	1,251,849
	教育研究経費支出	196,007	146,220	111,731
	管理経費支出	143,123	112,334	119,508
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	1,540	4,714
	施設関係支出	9,065	45,590	300,608
	設備関係支出	25,084	60,078	11,012
	資産運用支出	672,649	785,902	1,786,173
	その他の支出	339,690	373,560	274,022
	予備費			
	資金支出調整勘定	△207,089	△144,478	△39,442
	翌年度繰越支払資金	138,379	249,030	332,769
	支出の部 合計	2,749,043	3,019,793	4,152,947

事業活動収支計算書

(単位:千円)

教育活動収支		科 目	令和 2 年度	令和 1 年度	平成 30 年度
	収入	学生生徒等納付金	993,573	986,427	1,007,349
		手数料	39,567	43,169	43,208
		寄付金	275	700	2,260
		経常費等補助金	690,868	625,517	607,279
		付随事業収入	4,034	4,108	4,357
		雑収入	140,235	113,831	32,099
		教育活動収入計	1,868,555	1,773,755	1,696,555
	支出	人件費	1,441,840	1,382,115	1,265,596
		教育研究経費	297,946	241,239	200,455
		管理経費	152,301	120,662	123,664
		教育活動支出計	1,892,089	1,744,606	1,589,716
教育活動収支差額		△23,533	29,148	106,838	
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	15,082	14,450	9,266
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	15,082	14,450	9,266
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		15,082	14,450	9,266
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	287,041
		その他の特別収入	8,713	7,817	9,590
		特別収入計	8,713	7,817	296,631
	支出	資産処分差額	1,647	2,007	3,920
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	1,647	2,007	3,920
	特別収支差額		7,065	5,810	292,710
基本金組入前当年度収支差額		△1,385	49,409	408,815	
基本金組入額合計		△182,089	△247,727	△449,350	
当年度収支差額		△183,475	198,318	△40,535	

貸借対照表

(単位:千円)

資産の部		令和 2 年度	令和1年度	平成 30 年度
固定資産		6,721,875	6,572,922	6,407,327
	有形固定資産	3,864,866	3,942,906	3,941,233
	土地	790,335	790,355	790,335
	建物	2,652,738	2,729,194	2,762,900
	構築物	192,667	204,653	216,638
	(教)機器備品	99,337	100,060	55,772
	(管)機器備品	11,841	6,313	4,356
	図書	112,805	112,208	111,087
	車両	140	140	140
	建設仮勘定	5,000	0	0
	その他の固定資産	11,396	11,396	11,396
	施設利用権	311	311	311
	電話加入権	1,029	1,029	1,029
	有価証券	10,055	10,055	10,055
	退職給与引当資産	547,722	545,722	545,722
	減価償却引当資産	995,925	895,925	795,925
	施設設備引当資産	251,964	276,971	363,049
	第 3 号基本金引当資産	200,000	200,000	200,000
	第 2 号基本金引当資産	850,000	700,000	550,000
流動資産		343,253	412,398	429,291
	現金預金	138,379	249,030	332,769
	未収入金	141,967	83,705	16,994
	仮払金			0
	立替金	1,901,908	20,196	18,824
	修学旅行費預り資産	61,004	59,465	60,703
	前払金			
資産の部合計		7,065,128	6,985,321	6,836,618

(単位:千円)

負債の部		令和 2 年度	令和 1 年度	平成 30 年度
固定負債		553,532	543,823	551,722
	長期借入金	0	0	0
	退職給与引当金	547,532	537,823	545,722
	預り敷金	6,000	6,000	6,000
流動負債		439,870	368,385	261,193
	短期借入金	0	0	1,540
	未払金	207,089	144,478	39,442
	前受金	154,793	145,553	141,913
	預り金	16,981	18,887	17,594
	修学旅行費預り金	61,004	59,465	60,703
負債の部合計		993,403	912,209	812,916
純資産の部				
基本金		8,272,317	8,090,227	7,842,500
	第 1 号基本金	7,112,317	7,080,227	6,982,500
	第 2 号基本金	850,000	700,000	550,000
	第 3 号基本金	200,000	200,000	200,000
	第 4 号基本金	110,000	110,000	110,000
繰越収支差額		△2,200,591	△2,017,116	△1,818,798
	翌年度繰越収支差額	△2,200,591	△2,017,116	△1,818,798
純資産の部合計		6,071,725	6,073,111	6,023,702
負債及び純資産の部合計		7,065,128	6,985,321	6,836,618



上記の通り、令和３年度の学校法人滝学園の運営に係る理事会・評議員会は十分にその機能を果たし、年度内に付議された議案に対する決議事項に係る理事の業務については、滞りなく執行されたと認めます。教育活動においては、滝高等学校・滝中学校の基本的教育目標を達成するためコロナ禍の中、大きな影響を受け、中止・変更等は強いられ、未消化の計画もありましたが、それぞれに成果が認められます。

以上令和３年度に計画・実施した学校運営事業の執行状況、教育活動の実績、施設設備充実計画の実績及び計算書類（抜粋）を記し、事業報告とします。

令和４年６月２日
学校法人 滝 学 園
理事長 滝 富 夫